

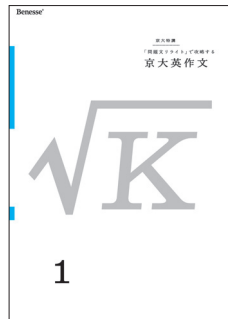
京大特講√K紹介

京大入試での合格ライン突破に向けた3か月(3回)完成集中講座。

京大入試ならではの問題の正しい「解法ルート」が身につく、今までになかった京大合格の確実がある。

開始月自由 3か月完成 1講座から

※教材のお届けは、毎月一回お届け(3か月)と3回一括お届け(一部例外あり)を選択できます。
詳しくは、HPのお申し込み内容をご確認ください。



「問題文リライト」で攻略する京大英作文

受講期間

3か月(3回)完成・毎月添削課題つき

受講費

15,000円(3回分一括払い・消費税込)

お届け教材

テキスト：B5版約40P(解答解説別冊40P挟み込み) 3冊

添削課題：3回

※各月(各回)テキスト1冊、添削課題1回をお届け。

英訳しにくい“こなれた日本語”でも確実に訳しきる力を3か月で身につける。
京大英作文は日本語らしいこなれた問題文が特徴。その攻略のカギとなるのが、問題文のリライトだ。本講座では、そのままでは英訳しにくい表現を英語にしやすい日本語に置き換えるための具体的な手法をマスターできる。さらに“英作文に役立つ基本構文”の習得によって、合格答案作成のための英作文力を養成する。

特長

●リライトの観点を明示した解説

英作文をつくる手順に従って、主語→動詞→修飾語句の順に、問題文をリライトするときの着眼点、意識に必要な発想の転換法を学ぶ。

●「条件指定つき確認問題」

英作文の手がかりとなる条件を指定した確認問題で、どこから手をつけていいのかわからないという状態を解決する。

●基礎づくりに欠かせない「基本例文一覧」

巻末には、英作に役立つ例文を一覧にして整理。読解に必要な構文ではなく、英作に使える基本構文を増やせる。

●セルフチェック欄つき添削課題

セルフチェック欄を設けた添削課題で、自分の答案を読み返して客観的に判断し、自己修正できる力を養う。

「問題文リライト」で攻略する 京大英作文 見本

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

京大レベル完成問題 1

1 次の日本語を英訳せよ。

自分の国の言葉で思うことを表現するだけでも容易なことではない。外国語は一生かけても自由に使えるようになるかどうかは疑問である。

(1975年度 京都大<改題>)

セルフチェック項目

 主語 (S) の設定は適切か？

- ・ 一般人称の主語
- ・ 無生物主語
- ・ 名詞句や名詞節
- ・ 形式主語の It
- ・ There 構文
- ・ それ以外

 述語動詞 (V) の語法は正しいか？

 修飾表現 (M) をうまく処理できているか？

 ケアレスミスはないか？

- ・ スベルミス
- ・ 大文字・小文字
- ・ ピリオド・コンマ・クエスチョンマーク
- ・ 主語と述語動詞の呼応
- ・ 名詞は単数か複数か
- ・ 名詞は特定か不特定か
- ・ 時制は合っているか
- ・ 文と文の連結は論理的か
- ・ 重要な情報の訳し漏れはないか

「問題文リライト」で攻略する 京大英作文 見本

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

(3) 「自分の国の言葉で」

「自分の国の言葉で」は「表現する」という動詞を修飾している。本問は一般論を述べているので、「自分の国の言葉で」は一般人称の you の所有格 your を使って、in your (own) language と副詞句で表現するのが適切。「自分の国の言葉」とは結局「母語」のことなので、in your (own) mother tongue と表してもよい。「言葉・言語」には前置詞の in を使うことに注意。これはよく出題される前置詞なので覚えること。with your (own) language というミスが多いので気をつけよう。

例 「日本語で文章を書く」

write in Japanese

例 「フランス語で彼に話しかける」

speak to him in French

ここまでは、easy が<It is+形容詞+ to do>のパターンをとるという「覚えている知識」を前提にして主語の設定をした。念のために他の主語の設定が可能かどうか検討してみよう。

(a) 一般人称の主語の発想

日本語を「あなたは自分の国の言葉でも思うことを容易に表現できない」とリライトすれば、You cannot express your ideas easily even in your language. と表現することができる。ここでは、easy という形容詞を easily という副詞に品詞変形をすることがポイントである。

(b) 名詞句主語の発想

動名詞句も主語として使ってよい。よって、Just expressing your ideas in your language is not easy. と表現することができる。もちろん、本番の試験の解答は1つだけ書けばよいが、日頃の練習では常に「主語の設定の可能性」を広く検討することが大切である。

(3)

●修飾語句の処理
「自分の国の言葉で」

↓リライト

「あなた(自身)の言葉で」

★意識の例

「自分の国の言葉で」

↓リライト

「母語で」

★意識の例

「…は容易ではない」

↓リライト

「あなたは容易に～できない」(助動詞の使用)

★意識の例

「…は容易ではない」

↓リライト

「…することは容易ではない」(動名詞を主語に)

★ 2 文目

解釈 問題文の構造を分析する

(1) …かどうかは 疑問である

S

V

(2) 外国語は (あなたが) 自由に使えるようになる

O'

S'

V'

(3) <一生かけても>

↑

「問題文リライト」で攻略する 京大英作文 見本

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

構築 問題文をリライトする

(1) 「…かどうかは疑問である」

形式主語の It^{*1}の発想に持ち込んで、It is doubtful whether[if] ... と表現できる。この表現は頻出するのでこのまま覚えてしまおう。

あるいは、この日本語は「筆者の疑問」と考えられるので、主語の I を補って、I doubt[am doubtful] whether[if] ... と表現してもよい。doubt 「…ではないと思う(疑問)」と、wonder 「…かなと思う(自問)」や suspect 「…と思う(= think / suppose)」は混同しやすいので辞書で細かい用例を確認しておくことが望ましい。

さらに深く解釈すると、結局は「外国語は一生かけても自由に使えるようにはならない[使えるようになる可能性は低い]」と述べていることは文脈から明らかなので、I don't think that ... や It is not likely[unlikely] that ... としても構わない。

(2) 「外国語は…自由に使えるようになる」

まず、「外国語は」の「…は」は主語でない。一般人称の主語の you を補って「**あなたが外国語を自由に使えるようになる**」とリライトして、「外国語」を動詞「使う」の目的語に解釈することがポイント^{*2}。ここでの「外国語」は不特定なので a foreign language / foreign languages となる。

ただし、ここでの「自由に使う」とは「好きなときに許可や制限なく利用する」という意味ではないので、*use a foreign language freely* という解答は避けるべき。ここでは「外国語を完璧に使いこなす=外国語を完全修得する=外国語に精通する」くらいの意味にとるのが常識的にも適切なので、*master a foreign language / learn a foreign language completely / become fluent in a foreign language* などで表現すればよい。

最後に、「…できるようになる」は will be able to で表す。can だけでは「…できる(能力がある)」という意味にしかならないので、ここでは避けるべき。

(3) 「一生かけても」

「一生かけても」は「使えるようになる」という動詞を修飾している。ここは<spend +時間 (in) doing> 「…することに～(時間)を使う、～(時間)をかけて…する」という表現を思い出せたかどうかで勝負が決まる。さらに一般人称の主語の you を補い、それ以外の足りない日本語も補って、「たとえ**あなたがその外国語を学ぶことに一生を使っても**」とリライトできれば完璧だ。すると、*even if you spend your whole life [all your life] studying it* という「譲歩」の副詞節で表現することができる。ここでは、「修得」のニュアンスを含まない study を使う点と、同じ表現の反復を避けるために the foreign language を it で表すことに注意。さらに、*whole your life* や *your all life* というミスにも気をつけよう。whole は形容詞なので<限定

(1)

☆基本の発想
「…かどうかは疑問である」

↓
It is doubtful whether [if] ...
(形式主語Itを主語に)
^{*1} 形式主語の It→P16

(2)

●主語の設定
「外国語は」
↓ **リライト**
「あなたが外国語を自由に
使えるようになる」
^{*2} 主語の見つけ方→P10

●動詞の設定
「自由に使う」
↓ **リライト**
「外国語を完璧に**使いこなす**
=外国語を**完全修得する**
=外国語に**精通する**」

注意！

「…できるようになる」は
will be able to. can だけでは
「…できる(能力がある)」
という意味にしかならない。

★意識の例
「一生かけても」
↓ **リライト**
「あなたがその外国語を学
ぶことに**一生を使っても**」

「問題文リライト」で攻略する 京大英作文 見本

※ご紹介している内容・デザインは変更になる場合があります ※詳しいカリキュラムはHPでご案内しています

詞＋形容詞＋名詞＞の語順に従って your whole life となる。all は以下の使い分けを確認しておこう。

(1) all＋名詞(不特定)

例 all books 「すべての本」

(2) all + (of) + 限定詞＋名詞(特定) * ofは省略するのが普通

例 all (of) the books 「その本のすべて」

例 all (of) his books 「彼の本のすべて」

(3) all + of + 代名詞

例 all of them 「彼ら全員／それらすべて」

例 all of us 「私たち全員」

注意！

whole は形容詞なので＜限定詞＋形容詞＋名詞＞の語順。

★意識の例

「一生かけても」

↓ **リライト**

「たとえばあなたが一生の間その外国語を学んでも」

あるいは、もっと簡潔に「たとえあなたが一生の間その外国語を学んでも」とリライトして even if you study it all your life [your whole life / throughout your life] などとしてもよい。ここでの all your life / your whole life / throughout your life は副詞句として使われていることに注意しよう。

英作文は日本語の語句や表現を機械的に英語に変換して貼りつける作業ではなく、日本語の表す内容や状況を最もよく反映する英文に再構築する作業である。だから、与えられた日本語を吟味して、「この日本語は結局…という意味だ」と解釈し直す姿勢が英作文では非常に大切である。まさに京都大学の英作文では「日本語の真意を見抜く力＝日本語の内容を要約する力」を試す出題が多いので、いい意味で大胆に日本語を再解釈・再構築して構わない。「内容の解釈は大胆に、表現選択は慎重に」というのが京大英作文を攻略するうえでは最も現実的な戦略と言えよう。

発信 正確な英語で書く

解答例 1

It is not easy just to express what you think in your own language. It is doubtful whether you will be able to learn a foreign language completely even if you spend your whole life studying it.

解答例 2

It is not easy to express your ideas even in your own mother tongue. I am doubtful whether you will be able to master a foreign language even if you study it all your life.